

次回、第2回ワークショップを10月18日(火)に開催します

第1回のワークショップで出された、課題点や整備のイメージをもとに、整備計画の素案となるたたき台案を話し合います。

日時：平成28年10月18日(火)
午後6時半～8時半
会場：市立市川歴史博物館
2F講堂

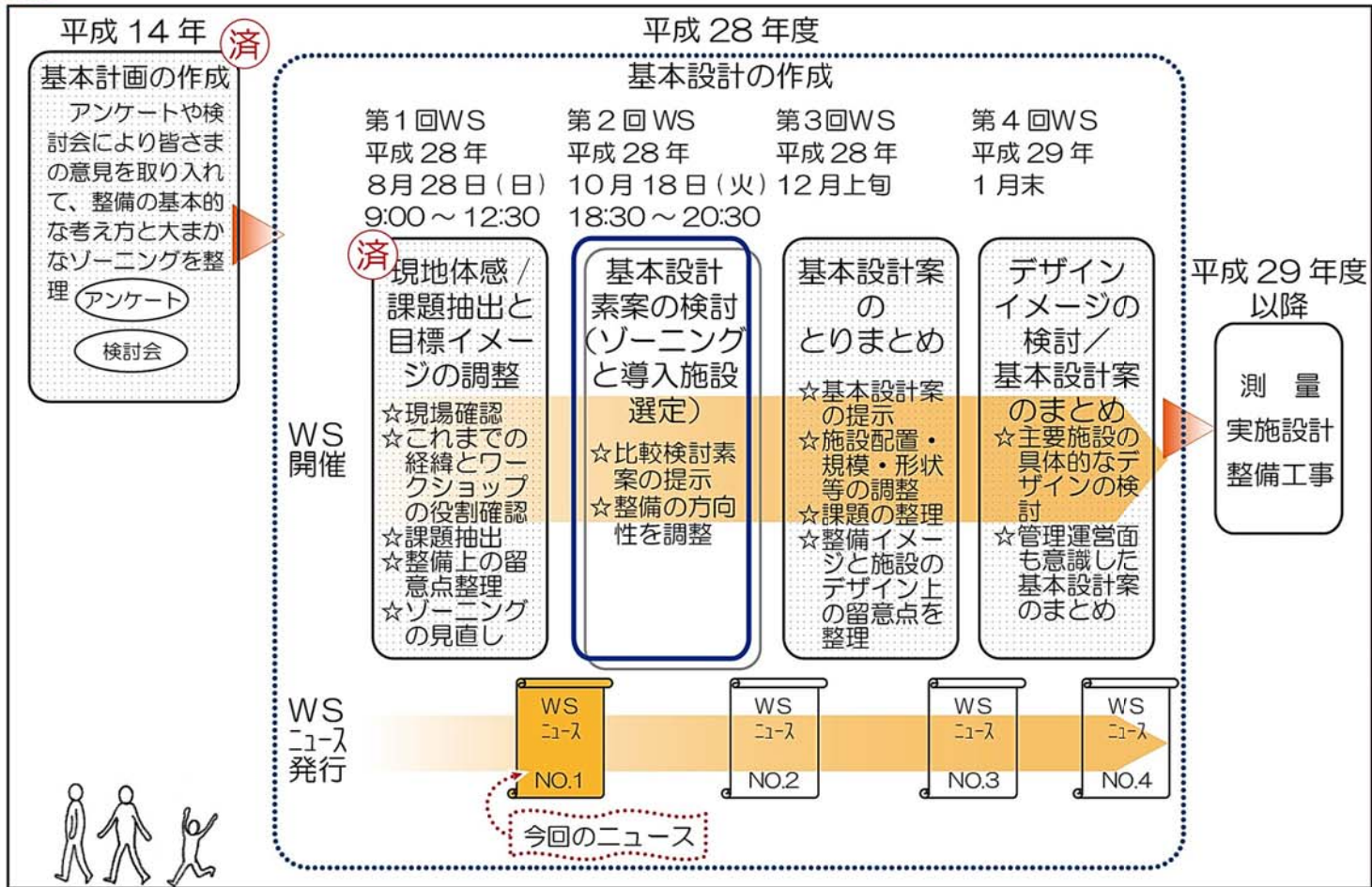
- ☆検討内容☆
- ・整備計画素案の比較検討
 - ・整備の方向性の調整

ぜひご参加下さい!

検討会会場：市川歴史博物館

※会員の方には、別途案内をお送りいたします。

ワークショップスケジュール(経過と今後の予定)



【お問い合わせ先】
株式会社あい造園設計事務所 電話：03-3325-6660 ファクシミリ：03-3325-6262
【事業担当課】
市川市水と緑の部公園緑地課 電話：047-712-6367 ファクシミリ：047-712-6365

「小塚山公園拡充予定地の整備を考える会」 ワークショップニュース

発行/市川市水と緑の部公園緑地課
編集/(株)あい造園設計事務所
発行日/平成28年9月23日

No.1

小塚山公園拡充予定地の整備プランについて、平成14年に地域の皆様のご意見をいただきながら検討いたしました。
今年度のワークショップは、周辺自治会から応募いただき、当時の計画案をもとにして、周辺状況の変化などを考慮しながら、基本計画の見直し及び基本設計を行っていきます。

平成14年に行われた公園のコンセプトと方針

- コンセプト：緑と水をつなぎ、里山の自然を育み継承しながら、地域の全ての人々が安心して集い交流する「環境ふれあい公園」
- 方針1：『堀之内貝塚公園、小塚山公園、じゅんさい池緑地を緑の散策道で結び、日常生活や自然散策に便利な公園づくり』
 - 方針2：『安心して暮らせる生活環境の向上のために安全で清潔な公園づくり』
 - 方針3：『子供からお年寄りまで全ての人々が自由にのんびりとくつろげる明るくて開放感のある公園づくり』
 - 方針4：『緑豊かな地域の自然とふれあい、四季の変化を享受できる公園づくり』
 - 方針5：『自然と楽しく遊べる里山体験を基調とした個性豊かな公園づくり』
 - 方針6：『自然と共生する暮らしを継承するために谷津の自然景観とそこに生きる動植物を守り育む公園づくり』
 - 方針7：『地域の歴史風土を学べる原風景を保全するために谷津地形を活かした公園づくり』
 - 方針8：『地域の共有財産である公園の管理に主体的に参加する公園づくり』

ご報告

8月28日(日)に第1回ワークショップを開催しました!

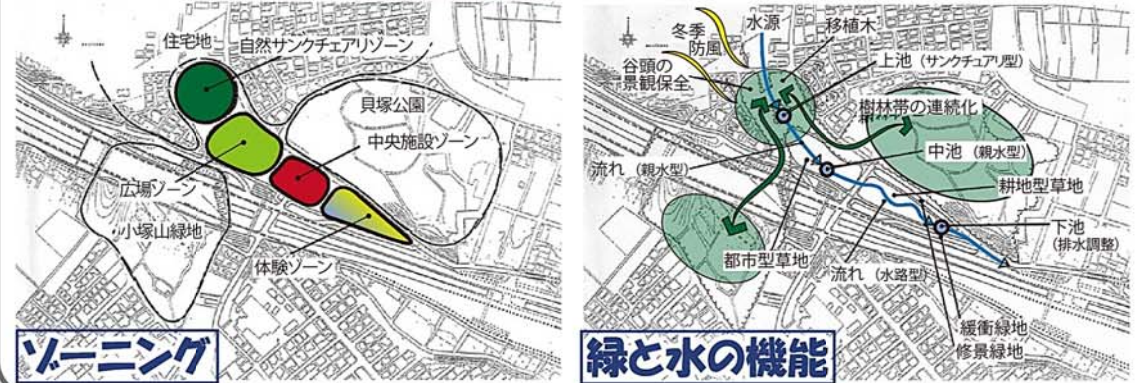
メンバー13人の参加のもと、今回の計画地と小塚山公園既存部分、隣接する堀之内貝塚公園を見学し、気がついたことや、課題点などを確認し、平成14年に実施した計画プランを見返して、公園整備の目標のイメージを話し合いました。



※詳しくは、2～3頁をご覧ください。

第1回ワークショップで話し合われた内容をお知らせします

H14ワークショップ検討成果



平成14年の計画案をベースに、公園に望まれる機能や導入施設、整備上の留意点や気になった点などを今回は2つのグループに分かれて（A及びBとCグループ）、意見交換を行い、課題点の抽出や、ゾーニングの見直しなどを行いました。

基本的な考え方については、2グループとも近い考え方でした。以下にまとめたものを示します。

【基本方針】計画地及び周辺の自然環境を生かした「原風景再生」と「人と生きものにやさしい空間づくり」が望まれる。（幼児の遊び空間（遊具）・スポーツ広場等への意見はなし。）

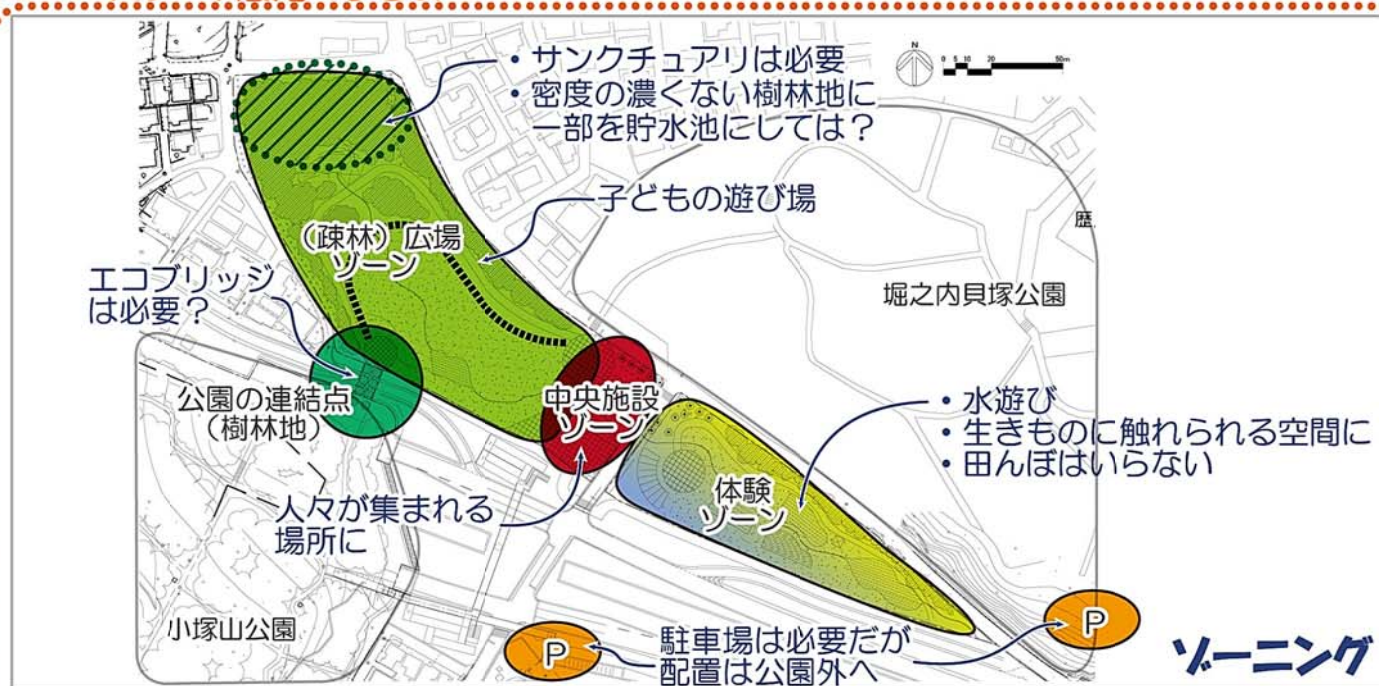
【核・テーマとなる施設等】水の導入は必要とされ、谷津田を貫く「小川」のイメージの再現と、子どもたちが生きものと触れ合える環境づくりが望まれる。

【ゾーニング】H14年の計画を基本的に受け継ぐ（生きもののための連携空間としての役割を強く意識）が、樹林地の配置については位置の変更も含め、検討が必要である。

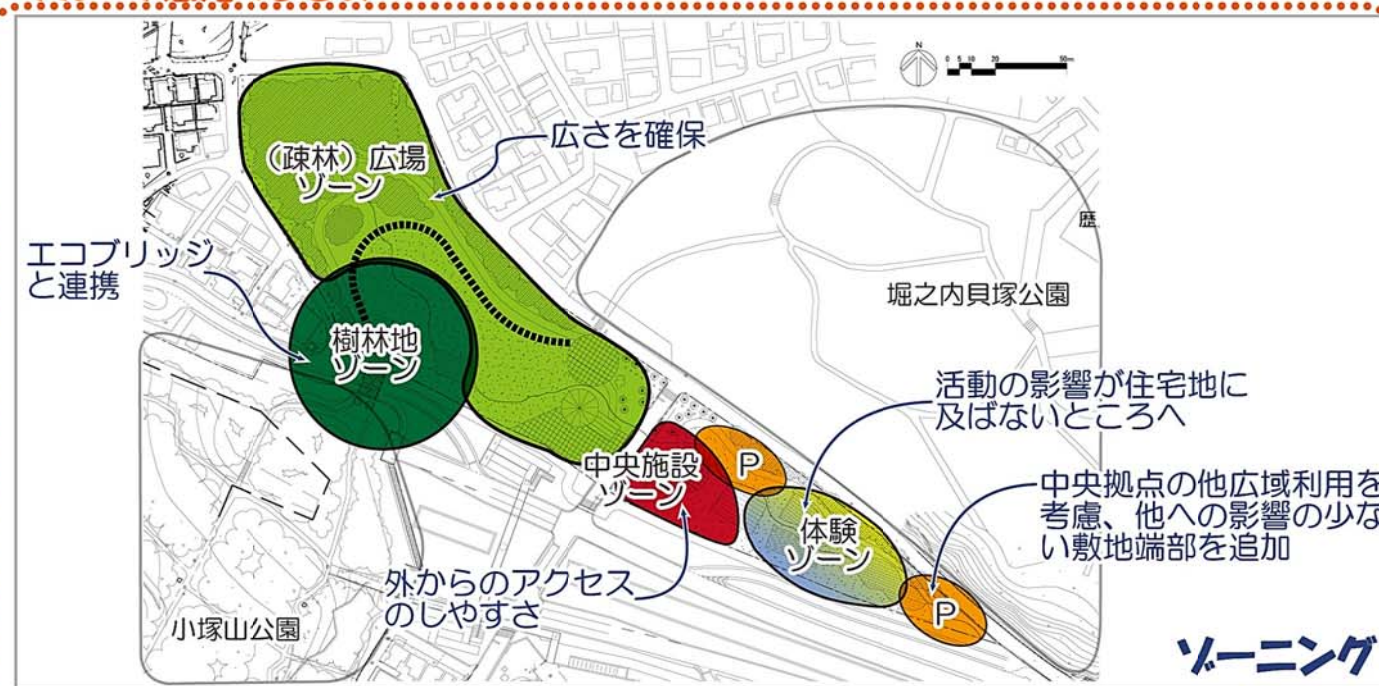
【参加体験施設】原風景として谷津田のイメージは残したいが、稲作を継続的に行うことは維持管理面から困難である。

今回の検討成果

A・Bグループ意見のまとめ



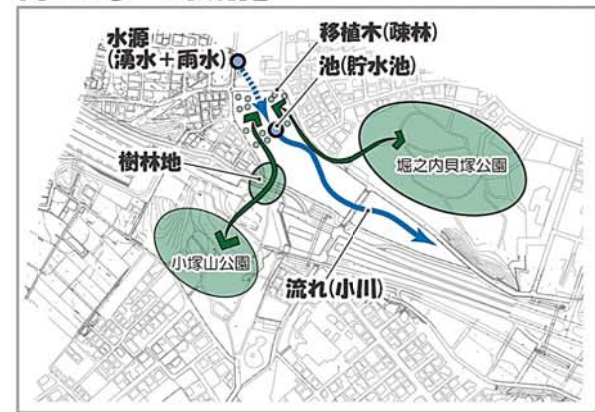
Cグループ意見のまとめ



意見交換でできた意見

- あらゆる世代や障がい者が利用でき、自然環境を楽しめる公園にしたい
- 既存の小塚山公園や周辺の公園との関連性は考慮する必要がある
- 公園周辺は車の交通量が多いので、安全に歩ける対策が必要である
- 原風景である谷津をイメージできる水場をつくりたい。自然の生きものに触れて遊べる谷津田にあったような水路がよい
- 子どもたちが遊べる水路がほしい
- 蛭の育成、体験ゾーンがほしい
- エコブリッジの7.0mの盛土は課題。周辺の住宅や景観的に配慮が必要
- 7.0mの高低差は、高齢者には大変。スロープでも歩く距離が長いので大変
- 公園内はできるだけコンクリート等の舗装はなくし、未舗装を多くしたい

緑と水の機能

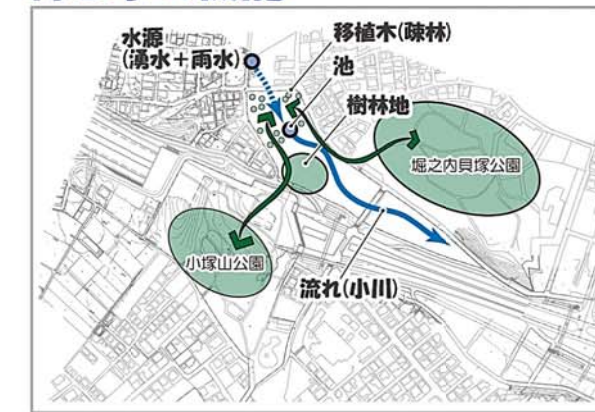


- 森のような樹林地は公園の中にはいらない
- 田んぼは管理がたいへんなのでやらないほうがいい
- 大雨のときの貯留機能を持った貯水池の計画

意見交換でできた意見

- 周辺の公園とのネットワーク化を検討し、周辺公園を一体として管理をしてはどうか
- 周辺公園からの計画地へのアクセスを十分検討する→高齢者に優しい歩道を
- 市川の原風景といえる谷津田のイメージ
- ふれあうことができる水辺や湧水を活用したホテルが生息できる水辺をつくりたい
- 地下水を利用した水辺の創出
- エコブリッジの高さ7.0mは、北国分側の住民からの景観が良くない
- 小塚山公園と堀之内貝塚公園を結ぶ緑のネットワーク形成に向けて、樹林地をエコブリッジ附近に配置
- あわせて、外かん整備にともなう移植木を活用
- 猛禽類の営巣地に配慮し、人と動物・鳥・植物が共存できる工夫が求められる
- 堀之内貝塚公園と小塚山公園をつなぐ緑が必要
- 樹林地帯の中に、実のなる木や水辺などがあれば、鳥や昆虫なども、もっとくるのではないかと

緑と水の機能



- 公園の園路は未舗装にしてほしい。園路は自然な土の道がいい
- 駐車場・駐輪場の配置は北国分側に配置する。（猛禽類の営巣地から離す）